

リアルス
REALIS 式

ポイント毎に釣れるルアー
& 釣り方をご紹介!

ボート
アングラー
オススメ

相模湖 ガイドブック

監修 真崎 悠汰

1冊で完璧!



DUO International
NIPPON QUALITY

発行元 株式会社デュオ
www.duo-inc.co.jp

¥0
ご自由に
お持ち帰りください



遊漁料

相模湖:無料
桂川(島田湖):有料

桂川(島田湖)では鮎以外の遊漁券が必要になる。前売り800円、現地売り1200円。知らずに桂川流域へ入ってしまったら、遊漁券を購入しよう。

ボートレンタル料

3,500円~
(二人以上は料金異なります)

- ・エレキ、バッテリー、魚探、のレンタル可。
- ・ボート屋さんによっては免許不要艇も有り。
- ・事前にボート屋さんと連絡をとり、予約するのがオススメ。

⚠️ ルールとマナーを守って釣りを楽しみましょう!

- ① 違法駐車・迷惑駐車をしない
- ② 規制区域・禁止区域に入らない
- ③ 行政・漁協・管理団体等の指示・ルールを守る
- ④ 釣場にゴミを捨てない
- ⑤ 釣行時は安全の為、ライフジャケットを必ず着用
- ⑥ 早朝などに大きな声で私語禁止
- ⑦ 帰着時間を守ってボート屋さんへ戻る

関東屈指の老舗バス釣りフィールド 相模湖

相模湖は、神奈川県相模原市にある湖。相模川を相模ダムでせき止めて作られていて、相模原市・横浜市・川崎市などへの上水道や工業用水・灌漑(かんがい)用水・発電・釣りなどのレジャー目的に活用されている。ブラックバスの釣り場として長い歴史を持つ人気のスポット。貸しボート屋さんが多く、船での攻略がおすすめのフィールドだ。レンタル品が充実しており、タックルだけ持参す

れば、ボート釣りが楽しめる。釣果は常にハイプレッシャーになりがちで、ルアーセレクトやポイント選びをしっかりと行わないと、なかなか手強い釣り場と言えるだろう。本誌では、相模湖を初心者でも攻略できるよう、デュオレアリスのフィールドスタッフの真崎悠汰氏が通う、オススメポイントと、効果的なルアーを季節ごとに紹介していく。



案内人

真崎 悠汰

YUTA MASAKI

埼玉県在住。相模湖を中心に関東の野池や河川など、ボート・オカッパリ問わず活躍するデュオレアリスフィールドスタッフ。年間釣行日数200日超えの経験から生まれる独自のメソッドは必見。

季節ごとのおすすめポイント



1

天狗岩ボート対岸
P03へ



2

一二三エリア
P04へ



3

秋山川上流
P05へ



4

本湖東岸
P06へ



5

本流カナヤマ
P07へ



6

合流点
P08へ



7

勝瀬橋
P09へ



8

青田ワンド
P10へ



おすすめポイント **1** サイズの使い分けがカギ!
天狗岩ボート対岸



おすすめポイント **2** 広範囲を探れ!
一二三エリア



ポイントの特徴

この時期、ワカサギが産卵のため、本流から遡上(流れをさかのぼって行くこと)してくる。このポイントには砂地や流れ込みがあるので、ワカサギの産卵場所に非常に適している。なので、多くのワカサギが溜まる。そして、同じく産卵前のバスが、体力をつけるため、卵を持ち、栄養満点のワカサギを求めて集まってくる。

更に、このポイントの西岸は浅いフラット(平坦な場所)のため、バスにとっても、産卵場所に適した地形と言える。

レイダウン(倒木した水中の木)があり、それを伝ってバスが浅いエリアと深いエリアを行き来しやすくなっている。早朝の寒い時間は深いエリアにいて、昼間になると、温まりやすい浅いエリアに移動してくる。

狙い方

ここでは、「レアリス ロザンテシャッド」の「57MR」と「63MR」をレンジ(水深)に合わせて使い分けるのがオススメ。

浅いフラットで、バスがワカサギの捕食をしている時は、「57MR」がオススメ。コツコツとボトム(底)に当てながら、バスにアピールしてみよう。

早朝で気温が低く、まだ水温が温かいボトムにいるバスを狙う時は、サイズが

大きく、「57MR」よりも深いエリアを探れる「63MR」がオススメ。中層を、少し早めのただ巻きでアピールしよう。

昼間、水温の上昇と共に濁りも発生しやすい。そんな時は浅いエリアでも、「63MR」を使ってシルエットを大きく見せるのが効果的。この時、糸を太くすることで、糸自体の浮力が加わり、「63MR」でも浅いレンジを泳がせやすくなる。



このルアーがオススメ!
REALIS ROZANTE SHAD

- 57MR** ■全長/57mm ■重量/4.8g ■タイプ/重心移動・サスペンド ■フック/#10 ■リング/ラインアイ#1・フックアイ#1.5 ■レンジ/1.5~2.0m ■本体価格/¥1,250
- 63MR** ■全長/63mm ■重量/6.8g ■タイプ/マグネット式重心移動・サスペンド ■フック/#8 ■リング/ラインアイなし・フックアイ#1.5 ■レンジ/1.8~2.4m ■本体価格/¥1,300

根掛かりしにくいリップ形状、ラインアイ位置、ウェイトバランス。シャッドクランキングに最適な小顔流線形ボディが特徴。ハイプレッシャーフィールド対応モデル。

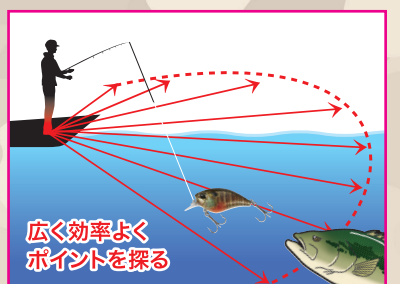
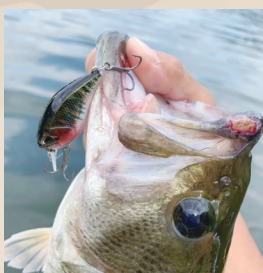
ポイントの特徴

ホテルの岸際は、岩が多く地盤がしっかりしているので、バスの産卵エリアとなっている。そこから沖に向かって杭の辺りまでは、台風で流された木などが沈み、バスのエサとなる甲殻類が居着きやすいエリア。さらに沖に出ると広大なフラット(平坦な場所)となり、ワカサギなどのベイトフィッシュ(エサ)が豊富なエリアである。

この時期のバスは、ミッドスポーン(卵や稚魚を守っている時期)で岸付近にいたり、スポーニング(産卵)前や、アフタースポーン(産卵後の体力回復の時期)で捕食のために沖に出るなど、スポーニングの進行に合わせて岸と沖を行き来する。狙う範囲が広く、バスの状況も様々なので効率的な狙い方が釣果への鍵。

狙い方

【広大なフラットエリア】ワカサギを追っているバスを、「レアリス ミッドローラー」で、扇状に広く探っていくのがオススメ!サイズ感も、レンジ(遊泳層)もワカサギに近く、濁りが入るこの時期でも、アピールの強い泳ぎをしてくれる。また、遠投性の高さは、広大なエリアで効率的。まさに「ローラー作戦」のように、バスを見つけ出す万能ルアー。



このルアーがオススメ!
REALIS CRANK Mid Roller

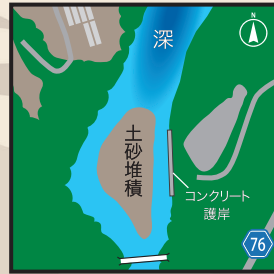
- 全長/40mm ■重量/5.3g ■タイプ/重心固定・フローティング ■フック/#8X ■レンジ/1.2m~1.8m ■リング/ラインアイ#1・フックアイ#1 ■本体価格/¥1,250

小ぶりな一ロサイズのローリングクランクベイト。名前の由来は「MID(ミッド)=中層」「Roller(ローラー)=ロール」。中層を広く範囲にローラー作戦の如く、バスの居場所を正確に探り当て、ローリングアクションでバスを喰わせにける事が可能。



おすすめポイント 3 甲殻類が居着くエリアを攻めろ!

秋山川上流



おすすめポイント 4 シェードに的を絞れ!

本湖東岸

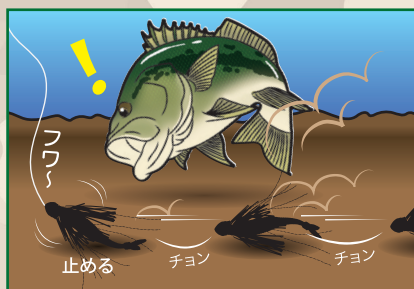


ポイントの特徴

春に産卵を終えたバスが、ベイト(エサ)を求めて上流に上る。このポイントは上流から冷たい水が流れ込むことで、ベイトが溢れ、バスが留まるポイントだ。主なベイトはオイカワと甲殻類。

オイカワは主に中層を泳いでいる。頻りにボイル(バシャバシャと小魚をバスが捕食している様子)が発生。

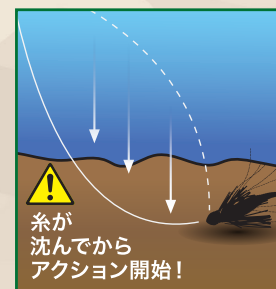
ここには、定期的な浚渫(しゅんせつ/水底をさらって土砂などを取り除く土木工事)により作られたブレイク(急激に深くなるところ)があり、その壁に上流からの水が滲み出る。また、冷たい水は、ボトム(底)の方を流れる為、フレッシュな水を求める甲殻類は、沈んだストラクチャー(岩、倒木などの障害物)やブレイクの壁にたくさん居着いている。



狙い方

【オイカワを捕食しているバス狙い】ボイル撃ちや、中層をリアリスの「スピン」や「ロザンテシリーズ」でただ巻きが有効。

【甲殻類を捕食しているバス狙い】水深が深い場所(土砂堆積より下流)や、ブレイクの壁際を「リアリス スモールラバージグ」でズル引きするのが有効。ルアーをチョンチョンと動かしては止める、これを繰り返す。止める時に糸をたるませよう。こ



の瞬間にバスが喰いつきやすい。

注意点は、ルアーを着底させてすぐアクションをすると、ルアーが浮き上がるので、バスに見切られやすい点。フロロカーボンの糸がある程度沈んでから、アクションを開始しよう。出来るだけ速くにルアーを投げ、竿を横に振り、チョンチョン引っ張るのがオススメ。

水中の様子を見極めながら、2種類の狙い方で、中層とボトムを釣り分けよう。水中がよく見える、朝・夕がオススメ。



REALIS [リアリス スモールラバージグ] SMALL RUBBER JIG

- ジグヘッド重量/1.3g・1.8g・2.7g・3.5g・5g
- V-TAIL3インチ(ノンソルト)
- ブラシガード&ティンセル付 ■本体価格/¥480

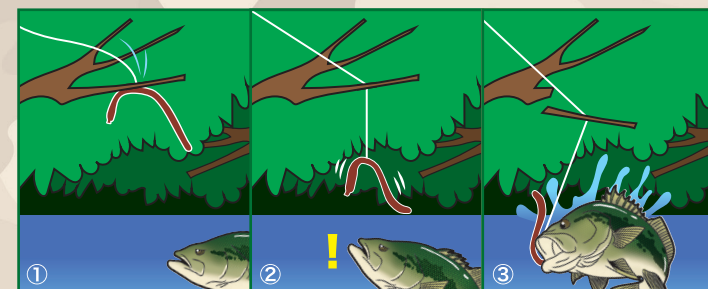
巻きのみドストをはじめ、ボトム&カバー撃ちまで全方位で威力を発揮! 相性抜群のVテールシャッド、ブラシガード、アピールUPのティンセルを標準装備。

ポイントの特徴

真夏、バスは強い日差しを避け、シェード(影)や深場に身を潜める。しかし、シェードが大きく広がる場所や、深場に関しては、狙う範囲が広すぎて狙いにくい。

しかし、こちらのポイント「本湖東岸」においては、オーバーハング(水面を覆いかぶさるようにせり出している木々)の真下のみ、ハッキリと濃いシェードが生み出される。その為、バスが潜む場所を絞りやすい。

ここまで陽が当たる場所とシェードがハッキリしていると、大概のバスはシェードから出ようとしない。木から餌となる昆虫が勝手に落ちてくるオーバーハングの真下ならば尚更。バスにとっては、非常に快適な場所と言えるだろう。



狙い方

狙うのはバスが潜むシェード部分のみ。すり抜けが良くサイズ感もちょうど良い、「リグルクローラー4.8インチ」のスナッグレスネコリグ(リグとは、ワームを用いた仕掛けのこと)を用意しよう。シンカー(オモリ)は1.8gがオススメ。それをオーバーハングの枝葉に向けて投げる。当然、枝葉に引っ掛かるが、それで準備はOK。ロッドを細かくシェイクして、リグルクロ



【リアリス リグルクローラー 4.8インチ】

- サイズ/122mm ■入数/20本 ■本体価格/¥680

【くねくねする】という意味を持つリグルクローラーのボディは、扁平ボディがタテ・ヨコに90度入れかわる特殊形状を採用。通常の丸い断面よりもアクション時の水の受け方が多彩で、より【くねくね】と生命感溢れる動きと波動を生み出します。高比重マテリアル&中空テールを備え、コストパフォーマンスにも優れた新基準ストリートワーム。

ラーを落下させよう。直接水面に投げるのに比べ、着水音が抑えられる。また、枝葉にぶら下がっている時点からバスに見つけてもらえる。そして、普段捕食している昆虫と勘違いしたバスが喰らいつく。

注意点は、シンカーが重た過ぎると、昆虫ではなく、枝や石が落ちてきたと勘違いして、バスが逃げてしまう。軽めのシンカーで優しく狙ってあげるのが釣果アップのポイント。



おすすめポイント 5 エビ狙いのバス一択! 本流カナヤマ



水中まで垂れ下がったツル



おすすめポイント 6 水質で見極めろ! 合流点



ポイントの特徴

この時期、台風により発生する濁りや流れを嫌ったバスが、避難場所として集まってくるのがこちらのポイント。また、屋間にワンド(入り江状にえぐられた地形)の浅場が温まりやすい、という理由でもバスが集まってくる。

そして、この時期に、台風や、ターンオーバー(水面が冷え、酸素量の少ない底の水が上昇する現象)による濁りの発生と共に、姿を現すのが「エビ」である。水中に垂れ下がったツルに居着く。

バスがワンドに集まってくる条件と、エビの発生するタイミングが重なるのが最大の特徴。普段は居ないエビを食べ始める=普段狙われてない条件のため、そこをピンポイントで狙うことで、非常に釣りやすい状況と言える。

狙い方

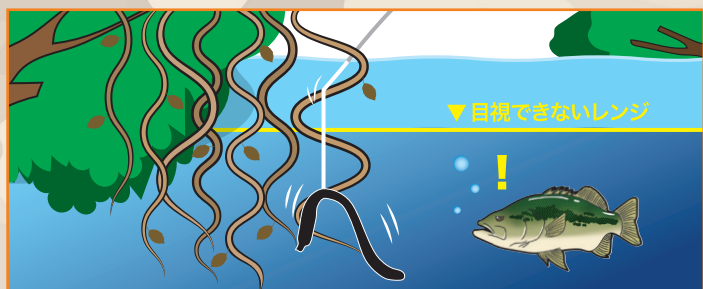
まずは、水中深くまで垂れ下がったツルを見つけよう。バスの回遊ルートに合わせて、沖まで突き出しているのが理想。糸をツルに絡めて、細身の「リアリス リグルクローラー」をエビに見立て、中層に吊るしてバスにアピール。糸を張り過ぎず、たるませてチョンチョンと上下にシェイクしよう。ミドストしてるイメージ。(※五三川・大江川ガイドブックP03を参照)



【リアリス リグルクローラー 4.8インチ】

■サイズ/122mm ■入数/20本 ■本体価格/¥680

【くねくねする】という意味を持つリグルクローラーのボディは、扁平ボディがタテ・ヨコに90度入れかわる特殊形状を採用。通常の丸い断面よりもアクション時の水の受け方が多彩で、より【くねくね】と生命感溢れる動きと波動を生み出します。高比重マテリアル&中空テールを備え、コストパフォーマンスにも優れた新基準ストリートワーム。



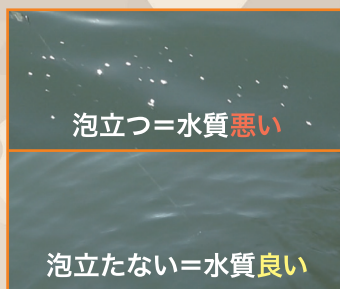
ポイントの特徴

本流の相模川と支流の秋山川が合流するエリア。異なる水質が交わることで、プランクトンが豊富でワカサギも多い。時期的に、水温の低下と共にワカサギのレンジ(遊泳層)が下がり、バスのレンジと合う為、バスにとって捕食がしやすく、そのまま越冬する個体も多い。

水質は非常にクリア。時期的にターンオーバー(水面が冷え、酸素量の少ない底の水が上昇する現象)が進む。ここにはバスはいないと判断して良いだろう。判断基準は、竿で水面を軽く叩き、泡が残れば、ターンオーバーしている証拠だ。

狙い方

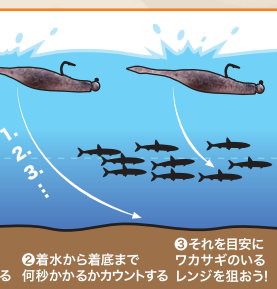
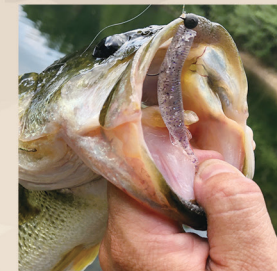
①まず、ターンオーバーしている場所は避けよう。



ポイントの特徴

②ブレイク(急激に深くなるところ)の壁や、岬の周りは、流れがあるので、水質が良い。ルアーが壁と平行に泳ぐように巻いていこう。バスに捕食されやすい。

③ルアーは、「リアリス ファインダーシャッド」がオススメ!クリアな水質なので、ハードルアーだと、どうしても見切られやすい。ミドストアクション専用のファインダーシャッドなら中層でフワフワと艶かしい動きで、バスを騙しやすい。(※五三川・大江川



ポイントの特徴

④魚探があれば、ワカサギの群れと同じレンジを狙う。イラストのようにカウントすると狙いやすい。

⑤橋のシェード(影)が重なれば、さらにルアーが見切られにくい。以上の条件でバスをGETしよう。



【リアリス ファインダーシャッド3インチ】

■全長/3インチ(77mm) ■入数/8本 ■本体価格/¥680

よりナチュラルに、より簡単にミドスト&ホバストを行う為のワーム「ファインダーシャッド」。表層直下、中層を漂わすホバスト&ミドスト専用機。ボディも縦扁平刺し、横扁平刺しと2種類のフックセットも出来、バスのコンディション、フィールドのコンディションで使い分けにより、細かくバスへのアプローチが可能。ボディ形状も後方重心によりノンソルトマテリアルを補える飛距離アップが出せます。



おすすめポイント 7 バスを誘い出せ!

勝瀬橋



ポイントの特徴

橋建設時のオイルフェンスがそのまま残っている。底まで伸びた網に、台風で流れ着いた大きな木や落ち葉などの漂流物が溜まっている。そういった隙間にバスが居着きやすい。他にも、橋のシェード(影)がかかるなど、バスが居着く条件が揃っている。ワカサギをはじめとするベイトフィッシュ(エサ)が豊富であることから、そのまま越冬する個体も多い。

オイルフェンスを辿って泳ぐことで、ベイトフィッシュやバスのレンジ(遊泳層)が、浅くなったり深くなったり、変化が生まれる。タイミングによってレンジが異なるのも特徴と言える。

網にルアーが根掛かりしやすいので、オフセットフックの使用など、根掛かり対策が必要である。

狙い方

オスメルアーは「リアルス ブイテールシャッド3インチ」のダウンショット。根掛かりが少ないように、針はオフセットフックを使おう。メインベイトがワカサギなので、寄せたカラーをチョイス。

オイルフェンス付近でルアーを沈め、ボトム(底)に着いたら細かくシェイクしてアピール。底の漂流物の影に潜んだバスを誘い出そう。



ボトムの少し上でアピールするように、ロッドの先を若干立ててシェイクしよう。

また、オイルフェンスに沿って、ワカサギのレンジに合わせたミドストも効果的。ナチュラルな泳ぎでバスを魅了する。(※糸をたるませ、一定の振り幅、リズムでロッドを動かすことで、ワームにロールアクションさせる、ジグヘッドリグにおける釣法)



REALIS V-TAILSHAD3"

[リアルス ブイテールシャッド3インチ]
■サイズ/76.2mm ■入数/8本 ■本体価格/680円

ソルトマテリアルの配合比率を徹底追及。ワーム本体が持つ反発力とボディに施された様々な表面加工がもたらす絶妙な水噛みで、各レンジで確実にアクションするよう設定。様々なコンディション下にいるバスへのアピールを可能としました。多彩なメソッドでフィールドを問わず威力を発揮する、異次元3インチシャッドワーム。



おすすめポイント 8 ハードボトムを見つけろ!

青田ワンド

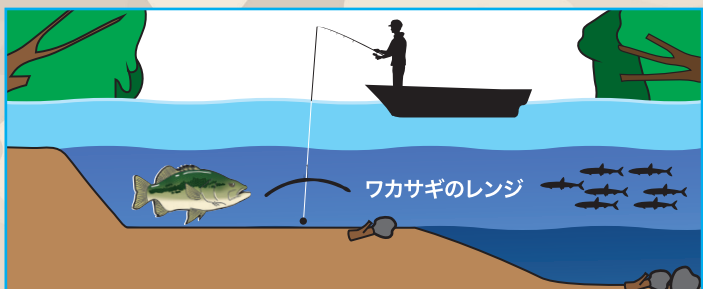


ポイントの特徴

相模湖で一番大きなワンド(入江状にえぐられた地形)。最深部は21mにもなる。山に囲まれ、風も少なく、バスが安心して越冬できるポイント。ワンド内に産卵エリアもあるので、冬から春にかけてバスが居着くポイントである。

ワンドの中心に向かい、フラット(平坦な場所)が階段状に深くなっている。気温低下により水質がクリアになるので、光量を嫌ったワカサギのレンジ(遊泳層)が下がっていく。それに伴いバスのレンジも下がる。

バスはワカサギと同じレンジにあるハードボトム(水底が固い場所)で越冬する。体力温存のため、ワカサギを追うのではなく、たまたま近くを回遊するワカサギを待ち構えている。



狙い方

オスメルアーは「リアルス リグルクローラー2.8インチ」のダウンショットワッキー。この時期のバスはエサを吸い込む力が弱いので、この細身ボディが最適。光量の少ない深い場所にいるので、カラーは明るくシルエットの出やすいものをチョイス。

- 1 まず、魚探でワカサギのレンジを確認しよう。
- 2 ワカサギのレンジと同じ



REALIS WRIGGLE CRAWLER 2.8"

[リアルス リグルクローラー 2.8インチ]
■サイズ/71mm ■入数/24本 ■本体価格/¥680

【くねくねする】という意味を持つリグルクローラーのボディは、扁平ボディがタテ・ヨコに90度入れかわる特殊形状を採用。通常の丸い断面よりもアクション時の水の受け方が多彩で、より【くねくね】と生命感溢れる動きと波動を生み出します。高比重マテリアル&中空テールを備え、コストパフォーマンスにも優れた新基準ストレートワーム。

●釣りを始めたキツカケ

真崎「僕は20代前半の時、職場の先輩の誘いで始めました。」

相羽「へえ〜！意外に遅咲きなんだね。(笑)僕は小学生の頃におじいちゃんに教わったのがキツカケだね。先輩に色々教わったの？」

真崎「はい。あと、当時は雑誌の付録のDVDで勉強しました。最初は出演してるプロの言っている言葉の意味が全く理解できなくて。わからな過ぎて、もっと知りたいって気持ちが強まって、どんだんのめり込みました。」

相羽「DVDとかメディアに出る人は、敢えて難しく言うんだよね。その方が、カッコよく見えて、憧れ存在になりやすいから。芸能人が演じるのと一緒。バスプロもワンランク上の世界にいるってのを演じて、人を惹きつけるんだよ。バス釣りの魅力を伝えていく上で、大切なことなんだよね。」

真崎「完全にそれにハマっちゃったわけですね。」

相羽「うん、ハマってるね。(笑)僕も以前は同じで、演じたり、カッコよさを伝えることは意識してた。だけど、今は真逆で、ビギナーの人でも分かりやすいように解説するようにシフトしたんだよね。だから、難しい言葉は出来るだけ使わないようにしてる。」

真崎「確かに！ユーチューブを見ていても相羽さんの解説はとにかくわかりやすい！なぜシフトしていったんですか？」

相羽「僕がバス釣りを始めた頃は、お金も無いし、落ちてるルアーを拾ってやって。(笑)当然、ワームで言うシェイクキングとかステイとか、リフト&フォールなんて最初はできないよね？変な話、当時は、投げるのもできなかったし、延べ竿にルアーつけてビヤッコと横に動かすだけ

だったもん。(笑)要は、ただ巻きだよ。でも、後から考えると、その頃やってた事が、バス釣りの基本だったな〜って思ったんだ。難しく感じて、手を出しにくい人もいるけど、テクニクが無くても十分楽しめるんだよね。シフトした理由は、簡単に感じるように伝えることも大切かなって思った事。誰でも最初は初心者な訳だし。この考えはルアー開発にも活かしてるよ。」

真崎「なるほど。たしかに相羽さんのプロデュースしたルアーは、誰でも使いやすいってイメージが強いです。忍虫は落とせば喰いますし、ロザンテとかミッドローラーも巻くだけで釣れるから、本当に幅広い層の方が使ってますよね。」

●ルアー開発について

真崎「以前、デュオの工場を見学させていただきましたが、あれは繊細な日本人だからこそできる技ですね。一般の方にも、是非一度見ていただきたいんですよ。」

相羽「そうだね。僕はデュオのルアー開発の過程も含めてユーチューブで配信したいと思って。ルアーってテストを通じて、どんどん考えや形状が変わるから、その過程をリアルタイムで見れたら、すごい面白いと思うんだよね。」

真崎「リアルタイムですか!?それは是非、自分も見たいです！先日、相羽さんのルアーテストをさせていただいた時は、針の掛かり方とか、バスの浮いてきた角度まで、かなり細かく気にされてましたよね？やっぱりそういうのが、形状や構造に影響していくんですか？」

相羽「もちろんです！それによってバスの食性とか、ルアーに対する考えがわかるからね。」

真崎「特に最初と大きく変わったのって何のルアーですか？」

●釣り場のマナーについて

相羽「マナーといえば、ゴミ問題とか違法駐車しないのは当たり前の話じゃない？犯罪だからね。最近、僕が特に気になってるのは、騒音問題。最近のユーチューバーの方の釣りって楽しく、賑やかに見えるでしょ？その影響か、グループでワイワイと、早朝から大声で騒ぎながら釣る人が、すごく増えたんだよね。グループで楽しむのは全然良いんだけど、周りが見えなくなってしまうのが問題だと思う。特に大江・五三川は民家が多いからさ。住民の方の事を考えたら、声の大きさや、車のドアを閉める音は、絶対に注意する必要があるよね。もし、自分が住民の方の立場だったら、休日に騒音で起こされるって、すごく迷惑だもん。相模湖だって民家が近いポイントもあるでしょ？」

真崎「そうですね。相模湖もエンジン使えるのは朝7時以降です。相模湖はボートがメインなので、引き波にも注意して欲しいですね。当然バス釣り以外の方も釣られてますから、川筋が狭いところでアケセル全開にしちゃうと、ぐちゃぐちゃになります。あと、挨拶もすごく大切だと思います。会釈とか、サンングラス外すとかな。」

相羽「うん、結局は人を想う気持ちが大切なんだよね。その場所で釣りをしてる人も、していない人も、みんなが快適な環境にしていけないと。そうしないと、どんだん釣り場が無くなってしまっからね。」

真崎「それは本当に思います。どんなに素晴らしいルアーでも、釣り場があってこそそのルアーですもんね！」

相羽「その通り！釣り場がなければ、釣りはできませんから。」

真崎 悠汰 × 相羽 純一

SPECIAL CROSSTALK

「僕は、初心者が使って釣れるのが最高のルアーだと思ってる。」
(相羽 純一)

デュオのレアルิสスタッフとして活躍する二人が、2021年2月某日、Zoomにて対談を行った。離れているものの、日頃からライという二人。この日も2時間、熱

で活躍する二人が、2021年2月大江・五三川と相模湖と距離はンなどで、情報共有をしているいい釣り談義に花を咲かせた。

